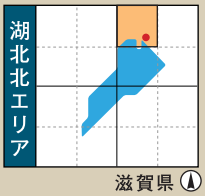
史跡
県指定

塩津丸山古墳群（しおづまるやまこふんぐん）

西浅井町塩津中　昭和57年3月31日指定



塩津丸山古墳群の所在する塩津は、今津（今津町）、海津（マキノ町）と共に湖北三津と呼ばれ、琵琶湖を利用した、畿内や中京地方と日本海を結ぶ交通の要衝の地でした。古墳群は、港や海に続く陸路を一望する位置にあり、交通を掌握した首長達の墓域と考えられます。

当時のできごと	
396年	高句麗の好太王百済を攻める
4世紀末～	古墳が巨大化する
430年	倭王讃が宋に朝貢する

塩津丸山古墳群の立地

塩津丸山古墳群の所在する塩津は、琵琶湖が最も北に湾入したところに位置し、福井県敦賀市を経て、日本海へ至る水陸交通の要衝の地です。塩津は南北約2㎞、東西約1㎞の狭い平野があるのみで、決して豊かな農地が広がる地域ではありません。通常、古墳は、被葬者の経済基盤を見下ろす場所に造られる例が多いことから、この古墳群の主は、農耕に基盤を置いた首長ではなく、交通の要衝という、立地を掌握した首長であると考えられます。



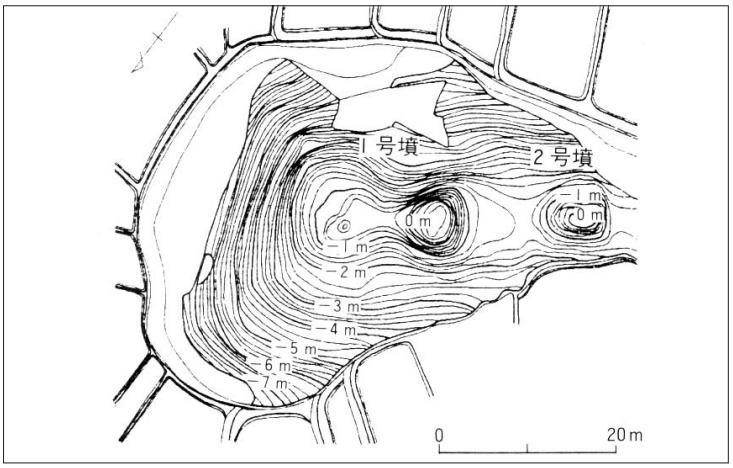
塩津丸山古墳群3号墳

古墳群の構成

塩津丸山古墳群は前方後円墳1基と、円墳3基により構成されています。前方後円墳（1号墳）は全長約21.5m、後円部径約12m、前方部の端部幅約13.5mの規模で、尾根の南端に立地します。1号墳に近接して、直径が約9m、高さが約1mの円墳（2号墳）があります。位置関係や規模から、2号墳は1号墳の陪塚（ばいちょう）と考えられます。いずれからも葺石や埴輪は確認されていません。この支群から約100m北に直径約30m、高さ約4mの円墳（3号墳）があり、このさらに約100m北に直径約28m、高さ約1.5mの円墳（4号墳）があります。3号墳、4号墳は、その規模や位置から、1号墳に続く首長の墳墓と考えられます。発掘調査が行われていないため、これらの古墳の築造年代は明らかではありませんが、墳丘の形状から、古墳時代前期から中期にかけて造られた古墳群と考えられます。



塩津丸山古墳群4号墳



塩津丸山古墳群墳丘測量図



奥琵琶湖と遺跡の位置（昭和30年代）

湖上交通と古墳群

船を利用した物資の運搬は、気候条件に左右されるというリスクはあるものの、大量の物資を少人数で運ぶことができ、さらに、陸路とは異なり道を整備する必要がないことから、古くから盛んに利用されました。特に琵琶湖は、位置的に畿内と日本海、中京を結ぶ所にあり、淡海という名称が示すように巨大な湖ですが、外海に比べれば波も穏やかで、安全に物資を運搬することができます。そのため、鉄道や自動車による物資運搬が主流となる近代までは、非常に重要な交通路となっていました。この交通路を掌握（例えば、通過する物資や人に課税する、或いは行き交う情報を独占するなど）することは、非常に大きな富と力をもたらしました。このため、琵琶湖の周辺には、この塩津丸山古墳群のような、交通路と密接に関わったと考えられる遺跡が、多数所在します。

学習シートNo.003・010・011・015・017・019・022・028・037・038・045・047・063などを参照してください。


塩津丸山古墳群1・2号墳

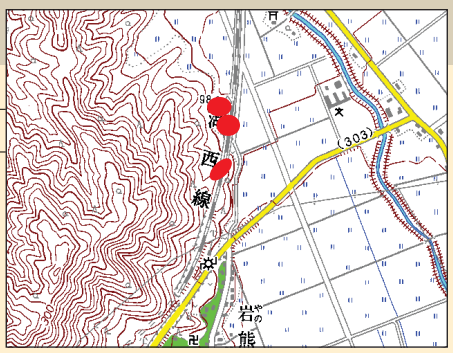
関連する文化財

古保利古墳群（高月町）	学習シートNo.037
塩津浜遺跡（西浅井町）	実態は不明であるが、塩津港を中心とした遺跡。湖岸に大量の遺物が散布する

もっと深く知りたい

西浅井町教育委員会	☎0749-89-1121	伊香郡西浅井町大浦2590
安土城考古博物館	☎0748-46-2424	蒲生郡安土町下豊浦6678

塩津丸山古墳群へのアクセス JR湖西線　永原駅下車



【参考文献】〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会　〔滋賀県埋蔵文化財調査年報〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月